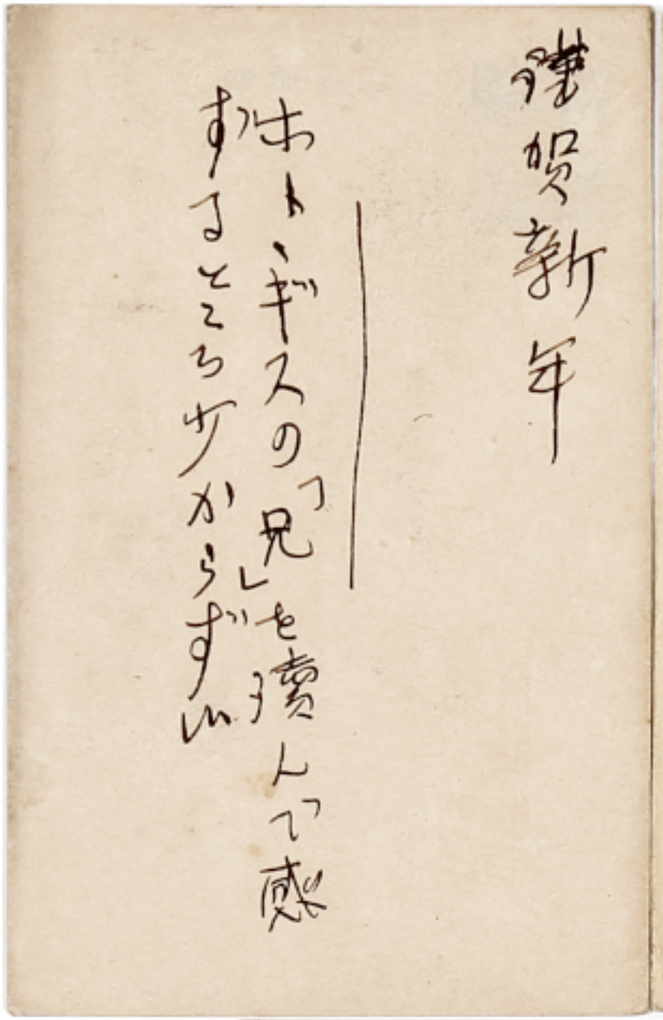
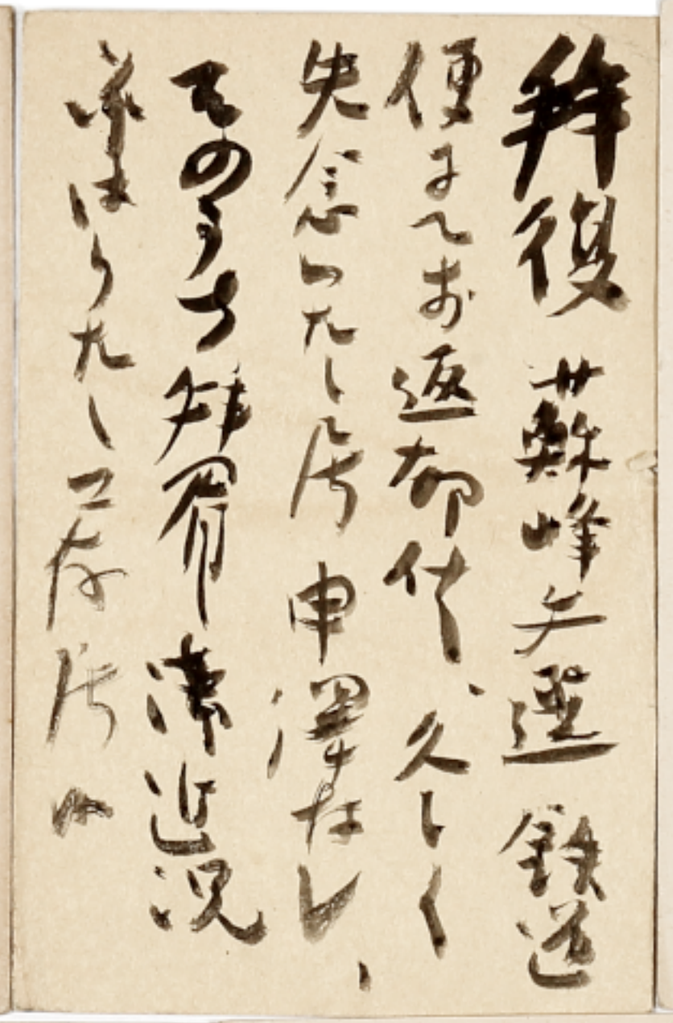
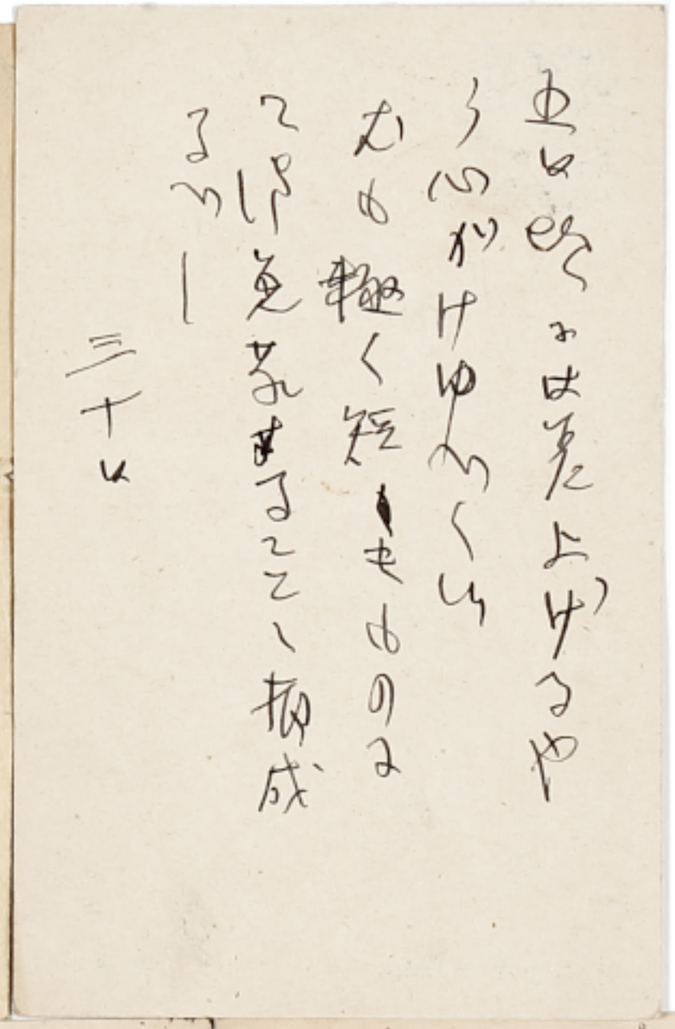


賀新年

おトギスの「兄」を偲んで感
するところ少からずい



拝復 蘇峰先逝 鉄道
便まことお返事、久しく
失念いたし候 申譯なし、
ものうち拝賀清近況
承はりたしとの存候

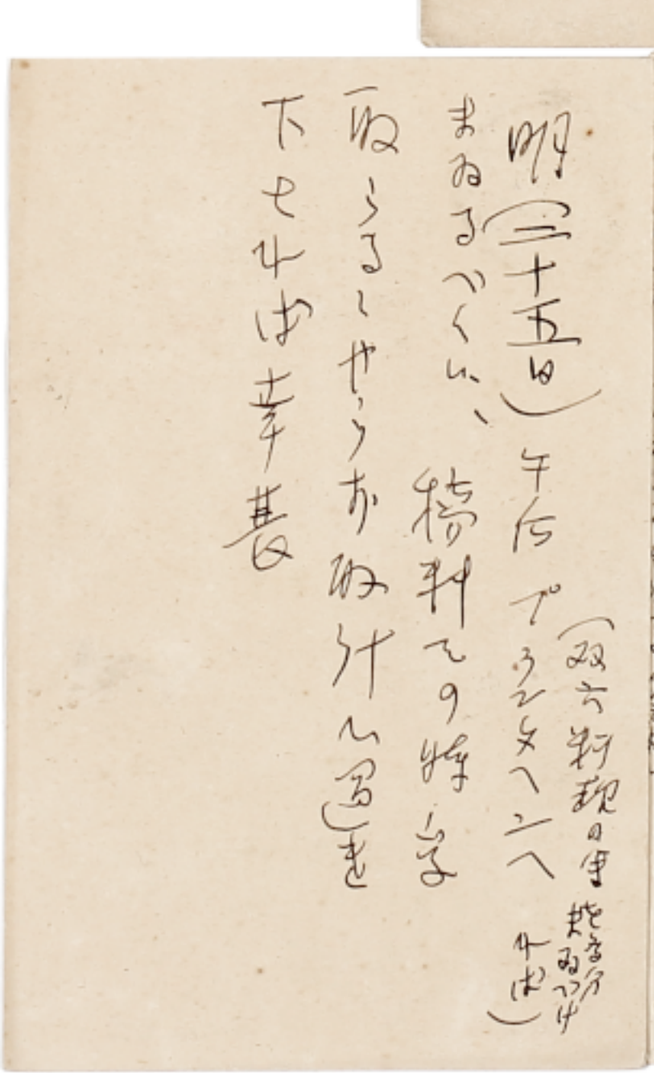


毎々ながらよりの
心かけゆくしく
かの細く短きものの
てはを見まることに拙成
るかー

三十日

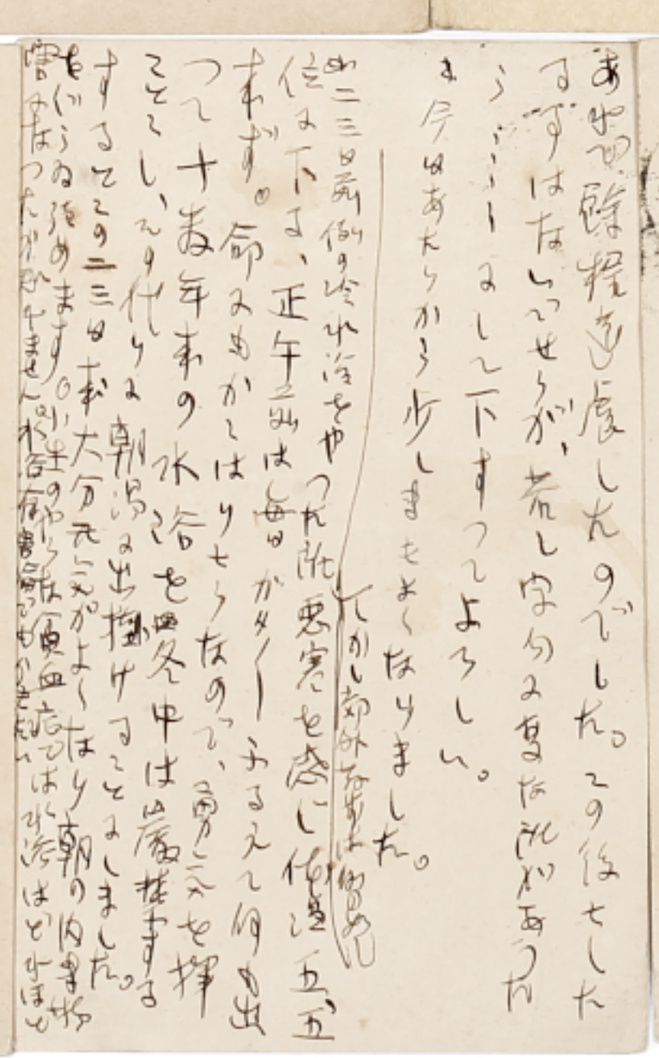
年まみは依載かるいてここ安心しい
ねます
先々本、まよみしさしのアナカシ二十をねが
しへよみかしたら、非常な面白いので就寝の時間
はなくなりました、こんなこと立ち寄るを
自分の力が並けてまし強信もありません
牧利は二十四の分かってよろしいから、貴くるな
う二十五六日までお待ちください、(毎年まへは少
くもも十位はありますう)
今年は短い伸集が春陽堂から出しへ貴
のって年年毎心へます
ろくなものも、今年も沢山の原稿、依頼が来ます
ので、仕事は沢山あります

年賀状 中元の件、御指教を
近々着手し、他の諸事も就事前
なれ十四まで溜め置 よくやう
いたしてねばならぬ
題は「悪女のもとやま」とねもんか
となにしたらい



明(二十五日)午后 でうえへ
まねるべくい、
牧利その時
ねうるやうかねがい
下もれば幸甚

(双六判現の事 お願ひ
申上げます)



あの時程多感しんのでした。この後もした
ずはないでせうが、若しなければうれ
しいー。
今日はあたらかう少しまもよくなりました。
二三日前から冷水浴をやつれ此悪寒を感じ仕事五、五
信は下さい、正午三時は毎日がタイムです。
ます。命のあかぎはりもうなので、御二人を押
つて十時年末の水浴を四冬中は必ず出
ここしてくれりは朝湯の出掛けすることをしました。
するとこう二三日お大分元気がよくなりました。
もいうね治めますの内事務
當年はつたかもしれません。水浴有難いものかもしれません。
(水浴は夏血症にはよくないかもしれません)